

# しんち九条の会だより

第14号  
2007/12/27

## 戦争は人間を悪魔にする

小川の寺島幹雄氏語る

去る12月8日(過去に日本が真珠湾を攻撃し、太平洋戦争が始まった日)新地町「老人憩いの家」でしんち九条の会が主催し、「戦争の話を聞く会」を開催しました。参加者は少なかったのですが、講師で、戦争体験者でもある小川在住の寺島幹雄氏のお話は、とても感動的で有意義なお話でした。内容は、①戦時下の住民の苦しみ、②南京大虐殺、③従軍慰安婦、④抑留者の生活の4つに分かれていましたが、お話の主な内容をこれから4回に分けて、連載したいと思います。

### ① 戦争中の住人の苦しみ

昭和になると日本はひたすら戦争への道を進み始めることになる。名目的には、アジアをヨーロッパの植民地から開放する。大東亜共栄圏を作る。などと言っているが、真の目的は日本がアジアを植民地化し、世界の大国になることだった。

昭和6年、奉天郊外柳条湖の南満州の鉄道を爆破させ、これを中国軍の仕業として総攻撃を命令、満州事変が始まった。昭和8年には国際連盟を脱退し、世界から孤立した日本はひたすら戦争への道を進むことになった。

そのために、法律を改めたり、統制を強めたりして国民が政府を批判したり、反対したりできないようにしていった。

「一億総動員で必勝を」を合言葉に、全てを我慢させられた国民の生活は、まさに困窮を極めるものであった。当時の世相を映した流行語には次のようなものがあった。

「挙国一致」「欠食児童」「木炭自動車」「モンペ」「日の丸弁当」「生めよ殖やせよ国の為」「贅沢は敵だ」「隣組」「月月火水木金金」「国民服」「国防服」「国民食」「ガソリン一滴 血の一滴」「足らぬ足らぬは工夫が足らぬ」「屁理屈言う間に一仕事」「進め一億火の玉だ」「神風特攻隊」「撃ちてし止まん」「玉砕」「欲しがりません勝つまでは」……などの言葉があらわすように、若者達も、中学生の男子は各地の軍需工場へ動員され、女子も女子挺身隊員となって動員され、旧相馬高女では学校内に縫製工場が造られ、毎日作業が行われていた。

また、軍需生産優先の生産体制のために生活に必要な物資の生産は大きく圧縮され、物不足が深刻化し、配給制の下で消費生活の自由はどんどん奪われていった。

教育面でも、国民学校でも体錬(体育)の時間や、学校行事のとき、軍事演習などをした学校もあり、小国民は皆、やがては兵士になって天皇陛下のおんために死ぬという教育を受けていたのであった。(以下次号へ続く)

### 日本国憲法

#### 第9条

日本国民は正義と秩序を基調とする国際平和を誠実に希求し、国権の発動たる戦争と武力による威嚇又は武力の行使は、国際紛争を解決する手段としては永久にこれを放棄する。

前項の目的を達するため、陸海空軍その他の戦力はこれを保持しない。国の交戦権はこれを認めない。



### カンパご協力への御礼

過日、この紙上でしんち九条の会へのカンパのお願いをしましたが、早速、小川の会員である目黒キミ様より多大のご芳志を頂きました。有難うございました。

他の方々もよろしくお願い致します。





しんち九条の会代表 目黒美津英

◇・・・12月に入ると、月日のたつはやさが、挨拶のことばになります。1年がたつのがなんとはいやいことか。太平洋戦争が開始された昭和16年12月8日から、今年で66年目を迎えました。あつというまに66年間に過ぎてしまいました。私は、66年前の12月8日の朝を鮮明に覚えています。

◇・・・当時私は、小学校5年生でした。あの朝、職員室の外に向けてある2つのスピーカーから臨時ニュースのアナウンサーの声、そして甲高く「帝国陸海軍は、本8日未明西太平洋において、アメリカ・イギリス軍と戦闘状態に入れり」続いて真珠湾攻撃などで はなばなしい戦果をあげたことが報じられました。

◇・・・スピーカーの前に集まって聞いていた児童達は、どよめき、緊張と興奮の顔を見合わせました。

その日から、軍国少年教育が強化され、「国のために一身を捧げる」という精神が培われていきました。

校門を入ってすぐ右手の所にアメリカのルーズベルト大統領とイギリスのチャーチル首相の等身大のワラ人形が作られ、それを児童たちが登下校の際にこぶしで叩き敵愾心(てきがいしん)を盛り上げました。

◇・・・同級生の一人は、少年航空兵に志願して一次試験を通過したところで、戦争が終わりました。2級上の人たちの中に、特殊潜航艇に志願した者がおり、これはあと一ヶ月戦争が続けば命を失ったと言っております。



◇・・・戦争を体験した人たちが次第に少なくなってきました。そして戦前の思想が再び首をもたげてきたように思われます。この思想は決して戦後に生まれてきたものではなく、戦前から生きてきた思想と思われれます。

その始まりは遠く、そしてその根は深いものであることを、今年の12月8日に改めて思いました。

新地町の文化財

山湾道遺跡

この遺跡は新地貝塚の北東に広がる遺跡で何回か発掘調査が行われています。

昭和50年の調査では縄文時代中期後葉(約4000年前)複式炉がついた住居跡が出土しました。

また、平成12年の調査ではそれより前の縄文時代中期前葉(約5000年前)の土器や動物の骨などがつまかさなつて出土しています。その少し南側にはおよそ1200年前の奈良・平安時代の住居跡が出土し、長い間人々が生活していた場所だったことが分かっています。

遺跡の南端、濁川の周辺では新地貝塚と同じ頃の土器が見つかり、新地貝塚と関連する人々の生活のあとが今後見つかるのではないかと期待されています。

新地町の文化財

(新地町教育委員会発行)より

ご愛読有難うございました

今年も1年が過ぎてしまいました。

あまり面白くない九条の会だよりでしたが、ご愛読頂き有難うございました。来年も又よろしくお願い致します。 よいお年を!